

(資料1)

令和元年度 磐田市立青城小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
【知】 自分の考えを深め表現する子	考えを深める授業の充実 ・考えを導き出す発問の工夫 ・ペア、グループ学習	子どもたちは、友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めることができたか。	A	○「考え議論する道徳」の授業を核に、一人一人が自分の考えをもち、友だちと学び合うことを通して、より深く考えたり自己を見つめたりする授業改善に取り組めた。 ○「青城20選」では、“年間で一人3選に合格しよう”と呼び掛けることにより、負担なく、意欲的に挑戦する子が多かった。また、友だちと声を合わせ、リズムよく暗唱する楽しみを味わえるよう、学級全体で取り組んだ。	○自分の考えをもち発言し、議論を重ねて考えを深めていくことは、今のこの時代にとっても大切なことだと感じる。 ○授業を参観したとき、答えの理由を話し合ったり、互いの意見とを比べたりする場面があり、丁寧に授業を進めていると思った。 ○他人の考えを聞き、再度自分の考えを見つめ直すことも、自己を見つめていくことである。そのことが、自己認識・自己開示・自己表現につながり、子どもが自己実現をするための重要なステップになると思う。 ○「青城20選」は、子ども同士や参観会などで発表をするなど工夫し、意欲が高まるとよい。
	表現力しようとする意欲を高める言語活動 ・青城20選の暗唱・音読	子どもたちは、「青城20選」に楽しく取り組むことができたか。	B	※来年度も道徳科を中心に、すべての教科において主体的に学びに向かうことができる授業づくりに力を入れていく。 ※本格実施となる新学習指導要領に示された力を身に付けられるよう、教員の研修の時間を確実に設定する。(校内研修「道徳科」・教師の時間)	
【徳】 自分も相手も大切に行動する子 進んで行	心と心のキャッチボール ・あいさつ運動の推進	子どもたちは、進んであいさつができたか。	B	○児童会や学府合同による「あいさつ運動」への取組が次第に実を結んできた結果だと考える。 ○縦割り活動(清掃やふれあい遊び)が異学年との温かい関係を築いていることは確かであるが、本校児童の素地として相手を思いやる優しさがあり、伝統として引き継がれている。	○「あいさつ運動」の取組は、何より継続が強みになってくると思う。 ○あいさつをすることで、多くの人と心と心のキャッチボールができる。積極的にあいさつをする習慣を、今後も継続して指導していくとよいと思う。
		子どもたちは、されたあいさつを返すことができたか。	A	※教職員が積極的に子どもとの関わりを深め、頑張りやよさを認め、子どもが客観的に自分のよさを見つめられる機会を設定していく。(「つながり週間」「ほめほめチャレンジ」)また、学府でも、引き続きあいさつ運動を推進していく。 ※道徳の授業と学校行事や各教科等に関連付けて考えさせたり体験させたりすることで、子ども一人一人に、しなやかでたくましい心を育てていく。	○本校の子どもたちがもつ優しい気持ちは、伝統としてずっと引き継がれていると思う。 ○自分の子どもから他学年の子ども名前を聞くことがある。縦割り活動でのふれあいがあり、思いやりや優しさが育っていると感じる。
	自己を見つめ強みを伸ばす取組 ・自己を振り返る時間の充実 ・道徳科、特別活動を中心としたカリキュラムマネジメント	子どもたちは、友だちを大切にしたり、他の学年の友だちと仲良くしたりすることができたか。	A		○自己のよさを見つめられる子どもは、ぐんぐん育つと思う。「ほめほめチャレンジ」に期待している。

【体】心と体をきたえ 最後までやりぬく子	強い心と体づくり ・体育的行事等を通して子どもの成長を促す取組 ・家庭学習の「忍たま体操」「筋力トレーニング」	子どもたちは、自分の課題を受け止め、めあてをもって運動できたか。	A	○運動会、持久走大会、長縄記録会等の体育的行事を通して、体力だけではなく、精一杯練習した成果を表現する達成感や、友だちと力を合わせて目標に向かう強い心を育てることができた。 ○スクールカウンセラーや養護教諭による「心の授業」を計画的に実施した。レジリエンスの大切さについて、子どものみならず、教職員や保護者の意識も高まった。 ○健康・安全の日には、保健委員会の子どもが風邪や熱中症予防について全校に呼び掛けた。インフルエンザ流行期には、全校で統一した対策を徹底することにより、子どもたちの健康管理の大切さへの意識が高まった。 ※持久走大会や長縄記録会に向けては、結果のみではなく、その過程をより評価したいとの願いから、青城標準記録を設定し、子どもの意欲向上を図っていく。 ※「心の授業」に関しては研修を行い、担任が行えるようにしていく。	○体育的行事の開催により、体力をつけ、チームワークを学び、心と体を鍛えることができていると思う。 ○学校が目指しているように「できた・できない」ではなくその過程を大切にしていけることが大切だと思う。 ○忍たま体操は、毎日の宿題となっていて保護者の立場からすると少し大変である。しかし、子どもたちの体力や身体能力が向上する様子を見ていて、とても良いことだと思う。 ○様々な行事の中で、子どもが先生方と一緒に、しなやかな心を育ててほしい。 ○水泳や陸上の練習を通して子どもたちは大きく成長していたので、大会がなくなったことによるマイナスが少なくなるよう工夫してほしい。
	健康管理の意識向上 ・週1回生活チェック ・健康の日の放送	子どもたちは、自分の心と体に関心をもち、健康に生活できたか。	A		

学校関係者評価を受けてのまとめ

運営協議会当日は、本校の子どもたちのよさを見ていただくために、児童会行事「6年生を送る会」を委員の方々に御参観いただいた。子どもの生の姿から、本校のよさと課題について、愛情にあふれた御意見をお聞きすることができた。

地域の方々や保護者の支えがあることで、子どもたちが安心して学校に通い、落ち着いた学校生活を送ることができていると改めて感じた。また、学校が、子どもたちの健やかな成長を目指して活動したり努力したりしていることを御理解いただき、応援をいただいていることをありがたく思う。

教員の働き方改革を進めるため、様々な活動の見直しを思案しているが、子どもたちのよりよい成長のため、そして応援して下さる地域や保護者の方々の学校への願いや期待を心に留めて、教育活動等を見直していきたい。

今後も、今いただいている信頼を決して損なうことがないよう、全職員で精一杯子どものために努力していきたい。

※A4で1～2枚